



京都薬科大学は8日、京都市山科区の同大キャンパスで、京都橘大学と合同で多職種連携教育（IPE）を実施した。3学部4学科の学生が少人数のグループで具体的な症例の課題や解決策を討議。各職種で視点が異なることや連携の重要性を学んだ。

IPE教育には、京都薬大の5年生、京都橘大看護学部、同健康科学部理学療

3学部4学科でIPE 京都薬大

法学科と作業療法学科の4年生の計51人が参加した。学生はグループに分かれ、脳梗塞で救急搬送され

半年後に在宅医療に移行した高齢男性の症例を対象に、様々な視点で討議。患者や家族の生活スタイルを考慮した薬の服用管理方法など、薬剤師や看護師、理学療法士、作業療法士の立場やチーム医療としてどのような支援や介入が考えられるかを話し合った。

2大学によるIPEは2016年度から始めたもので今年で9回目。参加した学生からは「各学部によって注目する視点が全く異なっていた」「他職種の強みと、共通の目標に向かって知識を共有することの大切さが分かった」などの声が上がった。